

100年前の公文書触れて

県庁で親子向け歴史講座

教育者や学者 功績調べる

県庁（松山市一番町4丁目）の本館1階にある県公文書センターで5日、愛媛の歴史を公文書で学ぶ講座が開かれた。小学生と保護

者計7人が、センターで保存されている100年近く前の公文書の実物を間近で見て、調べ学習に挑んだ。

参加者は、公文書の専門職である「准認証アーキビスト」資格を持つ大島直樹学芸員から「公文書は過去の出

県公文書センターの保存資料を間近で見学する参加者

来事を知り、行政の対応を検証する上で大切な資料」といった説明を受けた。児童は「誰が書いた文書が選ばれているのか」「アーキビストは日本に何人いるのか」と質問した。

続いて、松山夜学校（現松山学院高）を開校した教育者の西村清雄と、植物学者の八木繁一の功績や当時の様子を公文書の記載内容から学び、実物を見学した。

八木が1926年に「愛媛県特産植物標本」を後の昭和天皇に献上した際の資料は、上質な紙に端麗な字で記されたためられている。41年

の「教育法人 財団法人」には、37年の松山夜学校の財産目録や校舎図面があり、当時の姿が浮かぶ。

参加者は興味津々で資料を眺め、大正、昭和の公文書の魅力を感じていた。宇和島市明倫小学校5年船田京山さん（10）は「ガラス越しでなく生で資料を見るのは初めて。文字や紙の質で背景まで見えてくるのがすごいと思った」と話した。

講座は4月のセンター開設後初めて開き、夏休みに合わせて7月24日にも実施。計4回の講座に24人が参加した。（石川美咲）